

科学センター通信

2学期号

2学期の科学センター

「学びを止めない。」という考えで、コロナ禍でも工夫をこらし実施してきました。楽しくて深い、そしてめずらしい実験観察を、センター史上最高の296人の立川の子どもたちが取り組んだすばらしい2学期でした。

科学センター



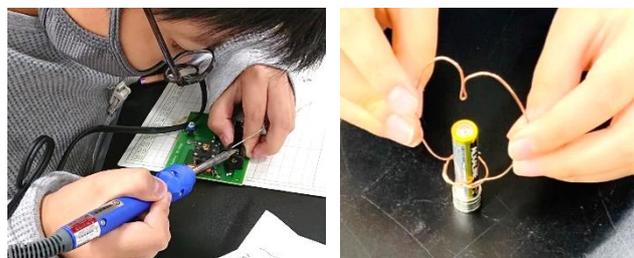
科学センター1年目の5・6年生 ベーシックコース

- 9月 ペットボトルロケットの理論・工作
- 10月① プラクトンや花粉などけんび鏡観察
- ② 身近な物質の酸とアルカリ
- 11月 不思議な静電気の実験
- 12月 ガリ工房 実験ショー



科学センター2年目6年生 アドバンスコース

- 9月 動物のからだ 解剖実験
- 10月 電波・無線とラジオの製作
- 11月 驚きの電磁気の実験
- 12月 東大キャスト出前科学館



ロボットプログラミングコース

チームを組んで宇宙エレベーターロボットを組み立て、プログラミングを考え、機体を軽量化させるなどの改良を繰り返して行ないました。

12月4日には宇宙エレベーターロボット競技会立川大会を開催して学習した成果を発表しました。



宇宙飛行士 油井亀美也さんが科学センターに！

宇宙飛行士の講演依頼は倍率が高いのですが、このたび、念願叶って閉講式（令和4年2月5日）にJAXA宇宙飛行士油井亀美也さんが記念講演をしてくださることが決定しました。

関口センター長は講座開始前のあいさつで毎回、宇宙に関する話を続けています。宇宙ステーションでラジオ体操や腕ずもうをする動画や、ロケット発射の映像など、センター員は身を乗り出して見ていました。

ある日のセンター手帳には「宇宙食の片付けは全部食べてよごれをティッシュなどでふきとってから小さくたたむ、ことがわかった」と記述がありました。熱心に学びを吸収しようとする子どもたちを科学センターは応援しています！



裏面もあります

宇宙エレベーターロボット競技会 立川大会 開催しました

令和3年12月4日実施

上方に設置した宇宙ステーションを模した基地に、物資（ピンポン球）をいかに多く運ぶかを競い合います。小町教育長からは「いろいろなタイプの人がチームを組んでミッションを行なう。一人一人が主役！」と励ましのご挨拶もいただき、小学生部門17チーム、中高生・大人部門6チームが参加し、技を競い合いました。



物資を入れるかごの大きさや形、途中で物資が落下しないように機体を安定させる工夫など、チームで話し合いながら何度も改良や調整を重ねました。

競技の審判や会場設営や片付けなど、科学センター卒業生の中学生・高校生が手伝ってくれました。ロボットプログラミングの的確なアドバイスも！



【表彰】

第一位 「鈴木琉翔」(すずもりりゅうと)
(第九小、西砂小3名)

第二位 「MSO」(若葉台小3名)

第三位 「Shiばじい」(第一小3名)

デザイン賞「五小クリエイト」(第五小4名)

ゲストにたっぴくん、たっぴちゃんが登場。デザイン賞を選んでくれました。



【主催】

立川市立小学校科学教育センター

【共催】

NPO法人 立川教育振興会

【協力】

株式会社 立飛ホールディングス

株式会社 ナリカ

立川サイエンスひとネット

